

1993年5月8日

平安京左京二条四坊十一町発掘調査現地説明会資料

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所在地 京都市中京区柳馬場通竹屋町下る五丁目242番地

調査期間 平成4年12月16日～5年12月末(予定)

調査対象面積 3200㎡

調査面積 530㎡ (第一調査区)

1. はじめに

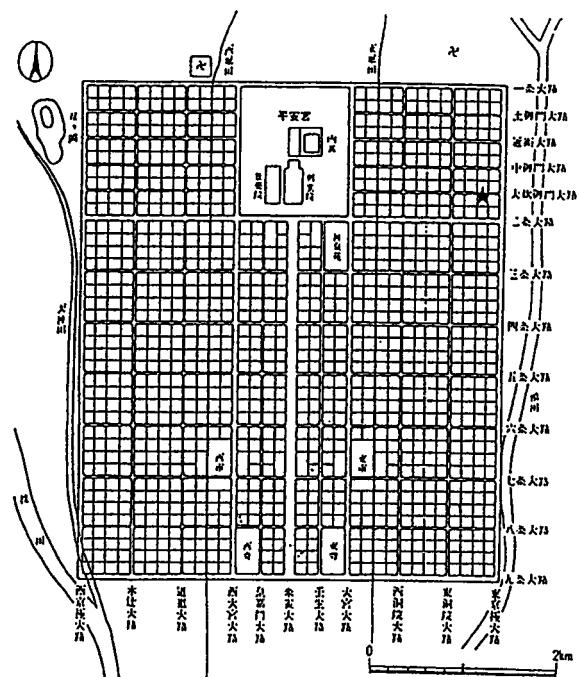
この調査は、御所南小学校校舎等建設に伴い京都市の委託を受けて(財)京都市埋蔵文化財研究所が実施中のもので、調査地はその予定地の北東にあたります。

調査地は平安京の北東に位置し、平安時代中期から天皇の里内裏や貴族の邸宅が建ち並ぶ地域の一面にあたります。それを平安京の条坊で表示しますと左京二条四坊十一町となり、調査地はその十一町の北端中央東に位置しています。室町時代の初めになりますと、敷地南の十町には天皇の御所である二条富小路内裏が造営され、付近一帯は時の政権の中枢部となりました。このように平安時代や室町時代において当地は極めて重要な地域であったことがわかります。江戸時代に入ると寛永年間の絵図には「金森出雲守」、貞享元年の資料には「小笠原屋敷」の名が見えることから当地には大名の京屋敷が置かれていたことがうかがえます。そして明治8年(1875)には「天公ハ真ニ富有ナリ」という蘇軾の句から命名した富有小学校が設置され、明治24年(1891)に当地に移転され、現在に至っています。

今調査の主要な目的は、このような歴史的な変遷がみられる当地に、どのような遺跡が各時代ごとに存在していたかを、具体的に明らかにすることです。

2. 発見された遺構

敷地の現地表から約50cmまでが法務局の建物を建設する際の盛土です。その下には近代



平安京の条坊と調査地

の整地層25cm、幕末の火災に伴う焼土の整地層が15cm、江戸時代後期の整地層が20cm程ありました。これらの層を機械力により掘り下げ、除去した後に調査を開始しました。最初に、建物、井戸、便所、土塋等からなる江戸時代後期の遺構群が認められ、以下平安時代までの各時期ごとの遺構群を検出できました。

①平安時代

この時期の遺構には、大炊御門大路路面、南側溝、掘立柱列、土器溜などがあります。大炊御門大路路面は、調査区の北端で確認し、路面の整地層は現在のところ2面あります。下の路面の直上には、土師器の小片が敷詰められているのが確認できました。大炊御門大路の南側溝は、中世の遺構群に削られ、残存状況は悪く、部分的にしか残っていませんが、残存幅1.5m、深さ50cmあります。その南には築地状の高まりが確認できました。なお、南側溝は遺構の重複から11世紀代には廃棄されたことが判明しました。掘立柱列は、一列を調査区南端で東西方向に推定5間分確認しました。柱穴掘形内には2次的な火を受けた跡のある凝灰岩片が認められました。土器溜は、調査区の中央南掘立柱列の北側で一箇所認められました。

②平安時代後期から鎌倉時代

この時期の遺構には、井戸、土塋、東西溝、掘立柱列などがあります。井戸は調査区北端の東よりと西南側の各一箇所で認められ、方形の掘形ですが井戸枠の痕跡はありませんでした。掘立柱列は平安時代のものと重複するように東西に一列認められましたが、規模等は不明です。東西溝は調査区の北東部で一部が確認されたもので、大炊御門大路南側溝であるかどうかは検討を要します。土器溜は東南部と西南部で各々一箇所で形はいずれも不定形です。

③室町時代

この時期の遺構には、東西溝、南北方向の掘立柱列、土塋などがあります。東西溝の残存幅80cm、深さ1m20cmを測り、断面V字形をしています。その位置は、ほぼ大炊御門大路南築地付近にあたります。なお溝は調査区の西端近くで途切れています。その途切れた所のすぐわきには、南北の柱列が一列みられます。なお、東西溝に直交する南北溝が中央東寄りで一条認められ、規模・形状は東西溝に類似します。また、溝の北側には小さな柱穴が密にみられることから、何らかの施設があったことがうかがえます。土塋は調査区内全域で見つかりましたが、調査区の北側に特に大型のものが分布しています。

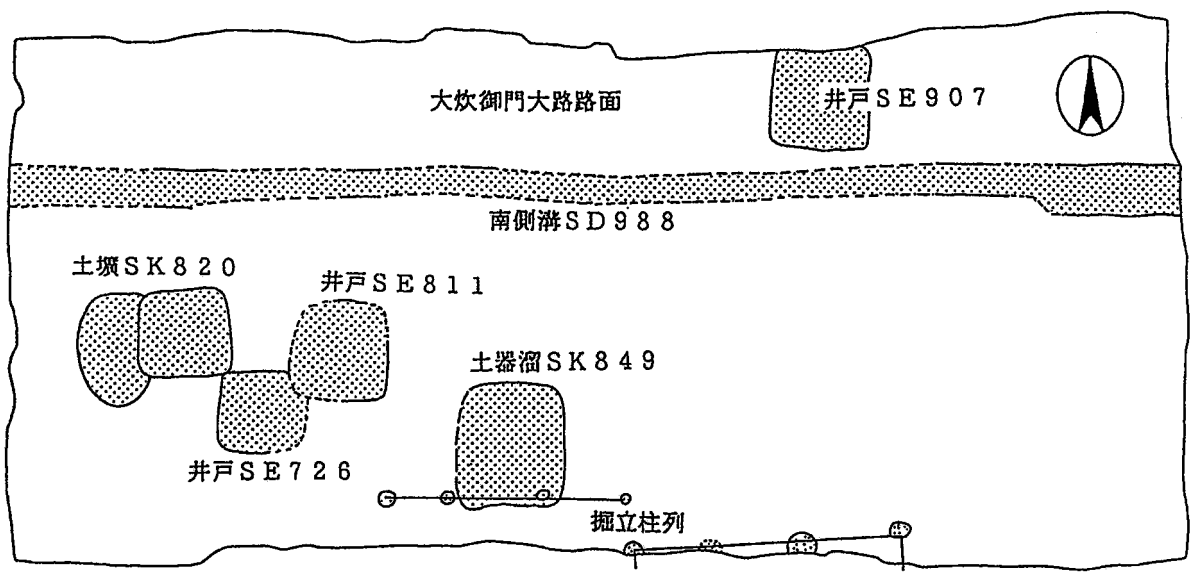
④桃山時代から江戸時代初期

この時期の遺構は、井戸、土塋、土器溜、柱穴などがあります。土塋は比較的規模が大きく、方形を呈し、深いものがみられるようになります。それらは、調査区の中央部と西部に分布します。井戸は円形の素掘りのもの一基を確認しただけです。

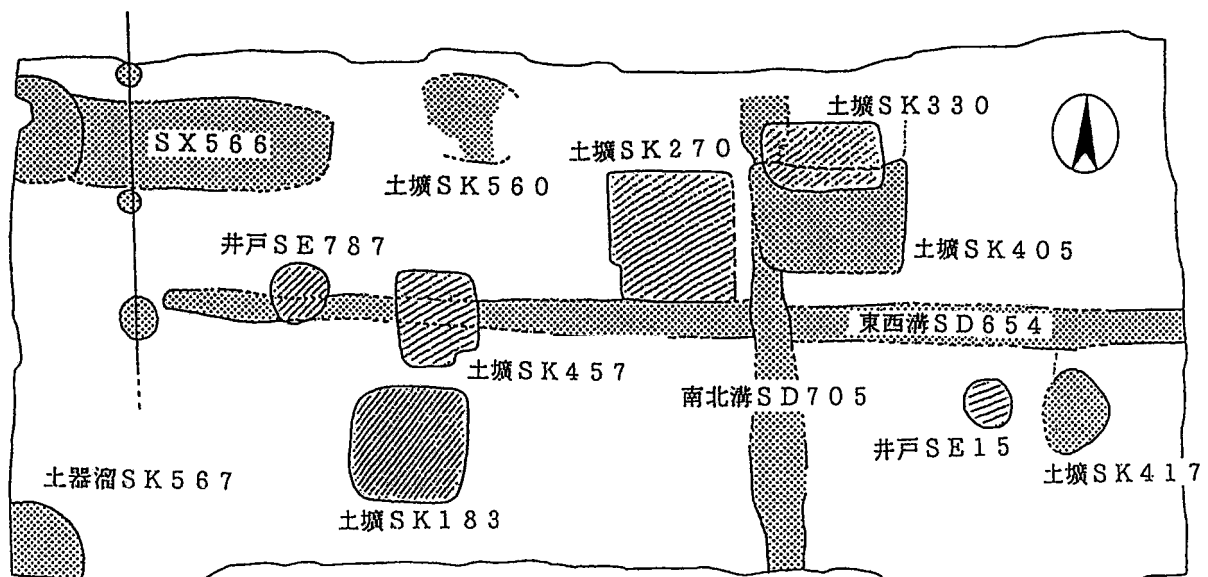
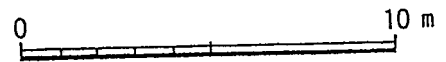
⑤江戸時代前期以降

この時期の遺構には、5軒以上の町屋跡や大名屋敷に通じる南北の石垣のある路地など

が3時期以上の作り替えをへていることが判りました。町屋は部屋が一行にならび片側に土間の付く形態で、井戸、カマド、便所をはじめ穴蔵と考えられる四角で地中深く掘られた収納用施設もいくつか発見しました。

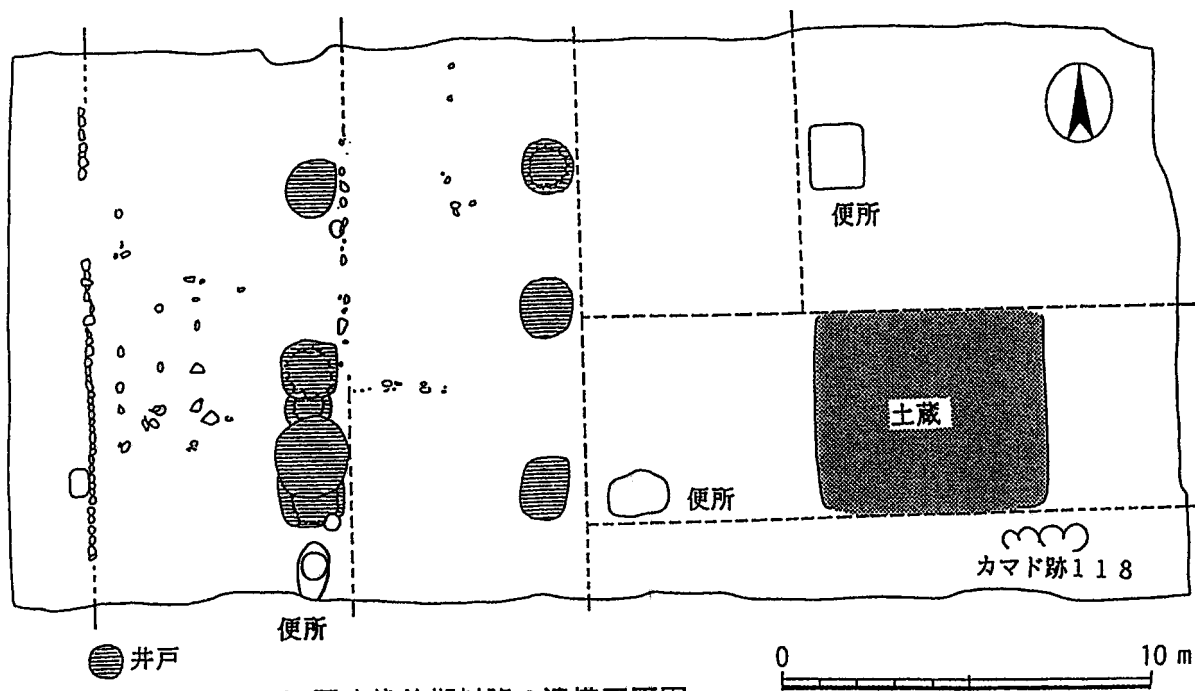


平安時代～鎌倉時代の遺構平面図



室町時代～江戸時代初期の遺構平面図

- 桃山～江戸時代初期
- 室町時代



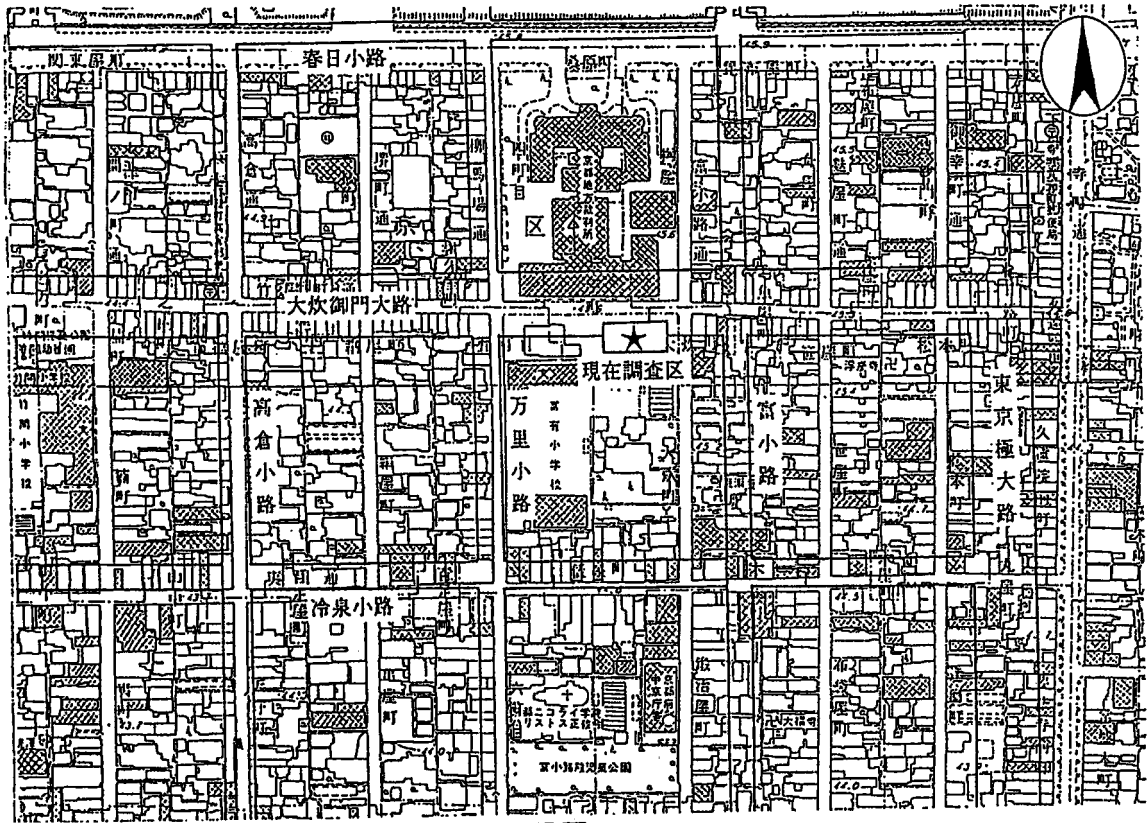
江戸時代前期以降の遺構平面図

3. 出土した遺物

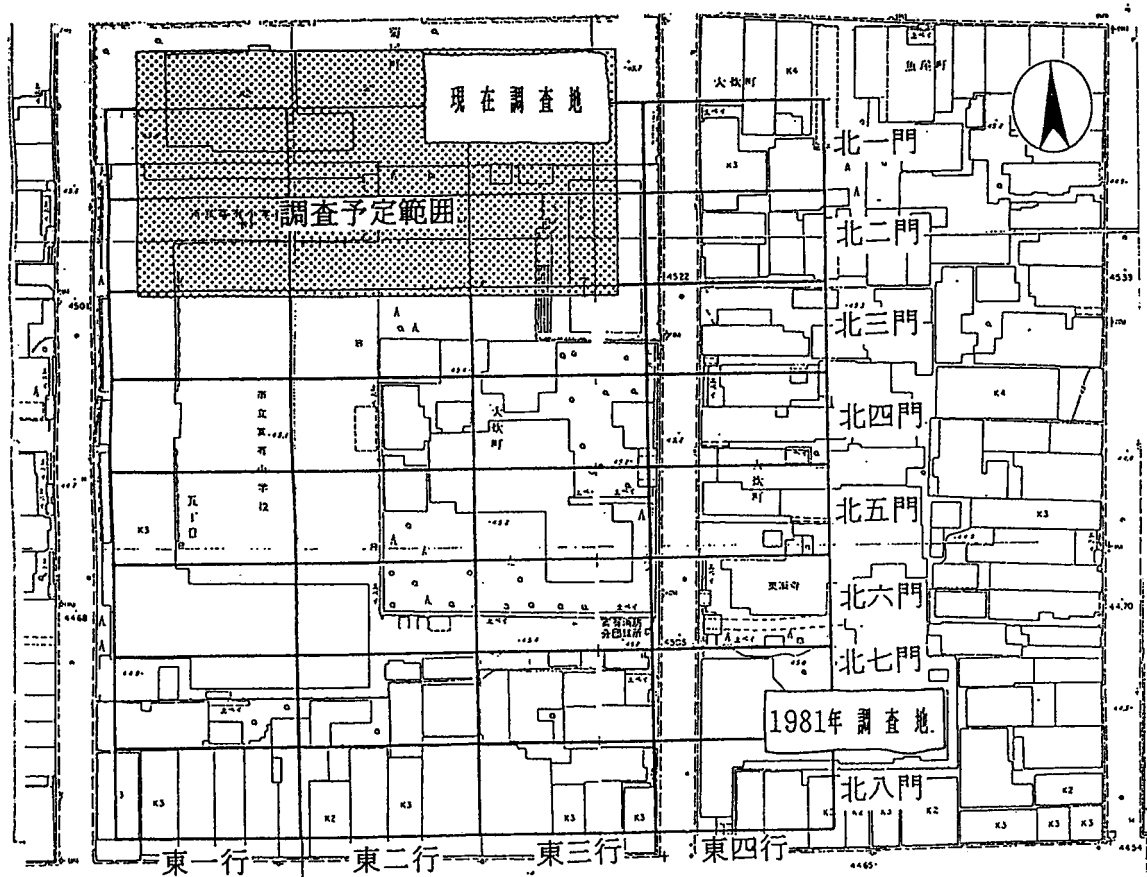
調査では様々な遺物が出土しましたが、興味深いものとして、江戸時代前期～中頃には鏡の鋳型、ルツボ、フイゴの羽口などがあります。桃山以前のものには、土器溜などから土師器が主に出土しますが、西南隅の土壇SK567からは15世紀の土師器に「かわらけ」の墨書のあるものや中国陶磁の青磁なども見つかりました。また、平安時代の遺構からは平安時代後期の軒先を飾る瓦が数点出土しています。

4. おわりに

今回の第一調査区では以上のような成果をあげることができました。今後南や西に調査区を設け、12月末まで引き続いて調査を行いますので、よろしくお願ひします。



調査地付近の条坊復元図



左京二条四坊十一町内の土地区画（四行八門制）